



令和3年度 関係者ヒアリング結果 資料

令和3年6月30日

関係者ヒアリングの概要

(1) 関係者ヒアリングの目的

森町における効率的で利便性の高い公共交通網を構築するにあたり、令和2年度にヒアリング調査を実施した各種関係団体に加え、交通会議内で提案のあった関係団体の地域公共交通への考え方を把握し、今後、検討を進める公共交通網への連携可能性等について検討するための基礎資料として整理を実施。

(2) 関係者ヒアリングの対象・ヒアリング項目

分類	対象	ヒアリング項目
介護タクシー 運行事業者	うらら	■介護タクシーの利用状況、運行体制 ■新たな移動支援への連携可能性
町内タクシー 事業者	日興ハイヤー	■地域公共交通としての担い手に関する考え方 ・ 運転手及び車両の保有状況 ・ 今後の事業展開（拡大していくのか、縮小していくのか） ・ 今後の新規事業の担い手の可能性
町内高等学校	森高等学校	■生徒やその保護者から移動や交通手段に関する意見・要望 ■生徒の通学実態の把握
福祉タクシー 運行事業者	北豊興業 株式会社ゆう	■福祉タクシーの利用状況、運行体制 ・ 利用者の居住地区や目的地 ・ 運転手や保有車両の状況 ■新たな移動支援への連携可能性
交通事業者	北海道旅客鉄 道株式会社 函館支社	■別記のとおり

■介護タクシー運行事業者

【うらら】

- ・ 特定旅客運送として、町内内科医院の送迎バスを、福祉車両で行っている
- ・ 福祉限定として、介護タクシーは、予約制で運行、利用者は月に10人程度
- ・ 濁川地区からも利用がある。
- ・ 料金は距離制で対応
- ・ 町内の高齢者が増えていく中で、地域の足を支える存在になっていきたい

■町内タクシー事業者

【日興ハイヤー】

- ・ 車両は12台保有しており、一部車両は休車している。
- ・ ハイヤーの運転手は10名程度確保しているが、高齢化が問題となっている。
- ・ スクールバスは役場から車両を借り、運転手7名で対応している。
- ・ 一部町内事業所への送迎についても実施している。
- ・ 今後、新しい交通の担い手としては、対応が難しいことが想定される。
- ・ 一般的な利用実態では、初乗り料金＋1～2メートル分の利用が多く、通院目的での利用が多い。
- ・ 通学における利用実態として、朝はスクールバス、帰りは時間が合わないため、タクシーを利用する生徒もみられる。

■町内高等学校

【森高等学校】

- ・ 現状、生徒や保護者から公共交通に関する要望は挙がっていない。
- ・ 1、2年生は1クラス、3年生は2クラスであり、規模が縮小している。
- ・ 通学者の住所は市街地が多く、次いで砂原地区、石谷・石倉地区及び濁川地区からも若干名が通学している。
- ・ バスやJRを利用して通学している生徒もいるが、日によって保護者による送迎や複数人で乗り合っ
てタクシーを利用している実態もある。
- ・ 15時20分から放課後となり、清掃等を済ませてから森駅に歩いて向かうと、時間の余裕がほとん
どない状況である。
- ・ 部活動の生徒を対象とした鹿部町方面に向かう帰宅用のバスが18時30分に森高校を出発する。
- ・ 通学を支援する補助制度があると生徒も利用しやすくなると思う。
- ・ 休日はJR等で函館市に出かける生徒が多いが、平日はほとんどないと認識している。

■福祉タクシー運行事業者

【北豊興業】

- ・登録制ではなく、予約があった人に対応しており、利用対象者の定めなく運行している。
- ・車両は3台保有しており、ストレッチャー対応、軽ワゴン車、軽乗用車である。
- ・運転者は1名のため、利用者に時間をずらしてもらうことや最悪の場合、お断りしている。
- ・1日でも最大7名程度への対応が限度。
- ・利用者の多くは、尾白内や砂原、富士見町などの市街地周辺であり、濁川もいる。
- ・町内では、実利用で概ね月30名の利用者があり、利用頻度として1～2回/月となっている。
- ・八雲町在住者からも要望が年数回ある。
- ・行き先として、町内では、フォレストやラルズ、国民健康保険病院、町外では、五稜郭病院、函館病院へのニーズが多い。
- ・役場で実施しているタクシーチケットの利用がある。

【株式会社ゆう】

- ・登録制ではなく、問い合わせがあった人に対し、対応している。
- ・車両は2台保有しており、運転手は3人いる。
- ・役場から補助等は特にもらっていないが、役場で実施しているタクシーチケットの利用が実質的な補助となっている。
- ・基本的には町内居住者の利用が多いが、たまに鹿部町から要請がある。
- ・実利用で概ね月60～70名の利用がある。
- ・介護サービス事業者と連携している。

■交通事業者

【北海道旅客鉄道株式会社 函館支社】

- ・ 鉄道利用者は減っている
- ・ 森から函館への普通列車は高校生が利用しており、帰りは特急に乗っている
- ・ 特急が使える定期券（特急定期券「かよエール」、函館～森間の1か月通学定期券は21,070円）があり、割安感がある
- ・ 砂原線を走る旅客列車は1日7本だが、貨物は定期列車で1日17本の運行となっている
- ・ 特急の利用者は、コロナ禍で令和2年度は利用者が通常の4割程度であったが、現在は7～8割程度まで回復している
- ・ 森から函館へ普通列車を利用する一般の方は、極端に少ない
- ・ 函館の商業施設は森町の住民にとって必ずしも魅力的とは感じていない気がする
- ・ 4～9月にかけて、「旅するパスポート」（携帯端末にて）を実施中